

さつま × しごと

Vol.08



とくども かずき
徳留 和樹 さん(38)

二渡地区出身。3才からバイクに乗り始め、宮之城農業高校を卒業後はプロに。平成21年に鈴鹿8耐で優勝。平成25年から3年間は技術アドバイザーとしてチームを指導。10年前に帰郷し、水稻を栽培しつつ、地元で須杭チャンピオンシップを主催している。二渡分団所属。



水稻農家
×
徳留
和樹

▼二渡地区に広がる田園地帯。そこに、真剣な表情でコンバインを運転する徳留和樹さんの姿があります。10年前に帰郷し、現在は約6haの面積で水稻を栽培しています。父親は農業委員、母親は認定農業者という徳留さんは「母の仕出し弁当に使うお米を自分で作るところから始めました」と4年前に新規就農者になりました。「弁当に使うお米は、母のこだわりで掛け干し米を使っています。手間はかかりますが炊いたときの香りが全然違います。食べた人に気付いてもらえたらうれしいですね」と笑顔を見せます。

▼帰郷後も、アドバイザーとしてチームを指導したり自身もレースに参加したりと、農業の傍らバイクと関わり続けました。そんな徳留さんが力を入れたのが、地元でのモトクロスのレース「須杭チャンピオンシップ」の開催。「さつま町や須杭の名前が広がってほしいと始めました」と話す徳留さん。現在100台ほど出場するという大会は、地元住民も物産を販売するなど地域にとっても欠かせないイベントです。

▼異色の経歴を持つ徳留さんですが、「天候に左右されることと、結果が求められる緊張感があることは、バイクも農業も一緒です」と話します。「バイクを通して地域を活性化したい。そして若い人が農業をやりたい」と感じるような目標になりたい」と真つ直ぐに前を見つめます。



今年4月に行われた「鈴鹿2×4レース」の写真。1,000ccのバイクで果敢に攻めます。

